

第4回多治見市役所本庁舎跡地等利用検討市民委員会 会議録	
日 時	令和7年7月10日（木）午後1時30分～午後3時30分
会 場	多治見市役所本庁舎4階会議室
出席委員	川口暢子委員（委員長）、羽渕朋之委員、日比野正治委員、八橋祐司委員、安藤英利委員、田代伸一委員、加藤由紀委員、長尾純夫委員、網干牧夫委員、長崎恵美委員、倉地円香委員
欠席委員	原國夫委員、小口英二委員
事務局	佐藤総務部長、長谷川新庁舎建設事務局長、山本課長代理、安田主査、佐藤主査 日本工営都市空間部：2名
傍聴人	2人
報道機関	1社
会議結果 要旨	
1. 本庁舎周辺駐車場調査の結果について意見交換がなされた。 2. 8月及び9月に開催予定の市民WSの位置付け、それぞれの役割、基本的な考え方、進め方等について意見交換がなされた。 3. WSでは、これまでに委員会で取りまとめた7つのテーマに制限せず、広い視点で意見交換を行うことについて合意があった。 4. WS参加者の募集について、引き続き積極的な広報活動を行うことに合意があった。	
議事 次第	
1. 開会のあいさつ	
2. 委員委嘱	
3. これまでの振り返り	
4. 今後のスケジュールについて	
5. ワークショップの進め方について	
6. その他	
7. 閉会のあいさつ	

質疑応答

1. 本庁舎周辺駐車場調査について

- | | |
|------|---|
| 委員長 | ・調査実施日は、平日と休日の1日ずつとあるが、当日は催し物が開かれるなどの状況はあったのか。アンケート調査の手法、対象者数はどのようなか。 |
| ⇒事務局 | ・調査日は、平日及び休日ともに催事のない日時に設定した。調査員が4つの駐車場を巡回し、駐車場利用者を対象に対面聞き取りもしくはQRコードを付した調査票を発行しWEB回答を依頼した。回答数は各日約130名程度である。 |
| 委員 | ・平日調査の様子を見ていたが、調査員が少ない点や調査方法に疑問があった。アンケート項目、調査費用はどのようなか。 |
| ⇒事務局 | ・乗車人数、駐車予定時間、どちらから来たか、目的の施設、目的の行動といった5項目について調査した。各駐車場に調査員が常駐するのではなく、定期的に巡回する手法で、費用は延べ2日間で200万円程度である。資料内容は、それぞれの駐車場において、一定の時間帯に何台利用されていたかをまとめたもの。 |
| 委員 | ・有料駐車場と無料駐車場との傾向に違いはあるか。 |
| ⇒事務局 | ・本庁舎駐車場の利用が最も多く、陶都創造館やその他利用施設の駐車場など無料駐車場の利用が多い傾向である。周辺の店舗においては、専用駐車場が満車になった場合、本庁舎駐車場へ案内していると聞く。 |
| 委員 | ・本庁舎駐車場などの無料駐車場について、市外利用者への認知度はどの程度か。また、市外利用者は、有料・無料のどちらを利用することが多いか。市外利用が増えると傾向に変化はあるのか。 |
| ⇒事務局 | ・認知度については不明であるが、平日・休日ともに、無料駐車場の利用が多い傾向にある。休日における居住地別利用者割合は、市外利用者が50%以上であり、個別に見ると、陶都創造館駐車場では約60%、多治見橋パーキングでは100%であった。同様に平日では、市内利用者が約70%であった。また、約80%の利用者が本庁舎駐車場を利用している。 |
| 委員 | ・休日における本庁舎駐車場利用者のうち市外利用者の割合はどのようなか。 |
| ⇒事務局 | ・約20%である。愛知県内19%、その他6%であり、合計すると約45%である。 |
| 委員 | ・自身の店舗利用者から駐車場の問い合わせを受けた際、本庁舎駐車場は無料であると案内するが、場所が分からないと言われる。初めての利用者にとっては分かりにくい場所であると認識する必要がある。休日は駐車場が埋まっている様子が見受けられ、本庁舎駐車場の必要性を感じる一方で、わずか2日間の調査ではデータとして不足すると感じる。 |
| ⇒事務局 | ・本調査は、第3回委員会でご要望を受けて実施した。目的としては、跡地等利用を検討する上で、駐車場機能が必要なかを判断する材料として調査した。駐車場のあり方について、行政がどの規模で供給するかが今後の課題になるという趣旨で示したものの。現状、本庁舎駐車場は、土日に無料開放するという緩やかな運用をしている状況である。 |
| 委員 | ・本調査に寄らずとも、オリベストリート等周辺施設の利用実態などを踏まえれば、本庁舎駐車場の必要性は理解できるのではないか。 |

委員	・駐車場の必要性について客観的に検討を進める上では、数値データは必要である。一方で、本データが正確かどうかは明確でないため、費用をかけず再調査できるのであれば、実施いただきたい。
委員	・本調査は委員会発議で執行部に依頼したものであるため、調査内容について苦言を呈するのは控えるべき。データが不十分な点はあっても、本庁舎周辺にどれほどニーズがあるかは理解できるため、この結果をベースに考えていきたい。
2. 市民 WS について	
委員	・昨年の委員会において、7つのテーマにまとめた認識がない。ワークショップでは、参加者に対して、本テーマに沿って意見を出していただく流れでよい。
⇒事務局	・第2回ワークショップにおける委員会意見を集約し、第3回委員会資料に整理した内容である。これまでに、地域の強み・弱みはワークショップでまとめ、その相関を分析して本テーマとした経緯がある。
委員長	・昨年度に、強み・弱みをどうするかという形で議論し、本テーマを導き出したと記憶している。ワークショップでは、本テーマに沿って意見交換をするのか、あるいはこのように改善したらいいのではないかとすることを本日の委員会で議論したい。
委員	・新たに15歳以上の若い人も参加するのであれば、本テーマに限る必要はない。
⇒事務局	・基本的には本テーマに沿って進行するが、その他の意見も挙がると考える。これまでの委員会の経緯を示すためにも、本テーマに沿って意見交換を進めたい。
委員長	・例えば子育て世代の若い人からは違う視点も出てくる可能性があるため、ワークショップの実施について議論してきた経緯がある。新たな意見が出たときに、本テーマに必ずしも入れ込む必要はなく、柔軟に捉えて再考するということが起こりうる。改めて、本委員会で意見交換し、ワークショップの進め方を検討するのが良い。
委員	・昨年の議論では、高校生を対象にワークショップを実施することとしていなかったか。
⇒事務局	・これまでの経緯では、若者の視点をとりいれるため、高校生から意見を聴くべきではといった意見があった。今般、市内の高校3校と、委員長所属の大学から研究生にご参加いただけるよう調整している。そのほか、チラシを用いて一般の方々（15歳以上）から30名程度を広く募集している。若い方から高齢の方まで広く意見を募り進めていきたい。
委員	・前回委員会から、あまりにも期間が空いているため、スケジュール感を持って実施いただきたい。毎月でも構わないが、定期的に委員会を実施し、方向性を共有いただくことが必要である。また、ファシリテーターは、慣れた方が担うこととし、委員が担う必要はないと考える。ワークショップを受けて、さらに検討することが委員会の役割だと考えている。
⇒事務局	・1年間委員会が開催されなかったことは理解しがたい。新聞で、幼稚園・保育園の統合園を跡地に建設する報道を見かけ、何も聞いておらず驚いた。所々で憶測が広がるため、定期的に市民に情報を提供するべきである。委員会としても、積極的に議論に参加していく意向である。

委員長	・ 委員会委員がファシリテーターを担う点について、市民ワークショップで委員自身は意見を控えるのか、あるいは第三者にファシリテーターを託し、委員自身が意見することが良いかどうかご意見をいただきたい。
委員	・ ワークショップを委員会に位置付けるのであれば、委員は意見を言うべきである。意見できないのであれば、委員会の位置付けから外すことを検討してはどうか。また、2回目ワークショップで何を実施するのか想定できないため、間に委員会を実施し、1回目の内容共有、2回目の進め方について、検討する機会が必要である。
委員	・ ワークショップは、委員会主催で行うといった認識がなかった。進行役は、執行部が行うと聞いており、委員として意見を述べることはできても、ファシリテーターを担うことについては違和感を覚える。
⇒事務局	・ 過去の委員会の議論において、さらに多くの意見を引き出すため、委員会主催でワークショップを行うこととしたと認識している。
委員	・ 委員会の役割は、ワークショップの実施でなく、成果物について検討することであると考える。
委員	・ 委員会の工程の一部として意見交換を行うことは良いが、ワークショップの成果を整理するため、別途委員会を開催する必要がある。
委員	・ 予算の都合もあるが、必要に応じて委員会を追加開催することは可能である。
委員長	・ ファシリテーターについて、委員が担うか否か、また、各ワークショップの間に、別途委員会を開催するかを整理したい。
委員	・ ファシリテーターを担うかどうかは、委員の意向により選択することとしてはどうか。
⇒事務局	・ それでは、委員のうち希望者が担当し、不足分は執行部が務めてはいかかがか。
委員	・ 7つのテーマは委員会で議論した内容であり、ファシリテーターだからと言って意見出しができないことはないと認識している。
委員長	・ ファシリテーターについては、これまでの検討経緯を知っており、経験のある方が担うことが望ましい。一般の参加者等に依頼することは困難であると考えている。委員の中で、ファシリテーターは辞退したいという方は申告いただきたい。
委員	・ 新任であるため、これまでの検討経緯を説明することは困難であるが、当日のグループワークにおいてまとめ役を担うことはできる。
委員長	・ 詳細は、改めて事務局に調整いただきたい。
委員	・ 参加者は跡地で何をしたいかを考える場と認識していると思う。テーマを絞ったとしても、災害のリスクなどについて15歳の子が意見を述べることは困難と感じた。必ずしもワークショップの中でテーマに沿ってまとめるのではなく、次回の委員会において整理することとすればよいのではないか。
委員長	・ 様々な進め方が考えられる。例えば、災害について認識のない人にも関心を持ってもらうため、各項目の冒頭で簡単なワークを取り入れる方法もある。話し合いの進行方法としては、「どんな空間にしたいか」「どんな機能を導入したいか」といったテーマごとに区切る方法や、参加者に自由に意見を出してもらう方法、特定のテーブルで重点的に議論する方法などが考えられる。まず、こうした方向性を決めてはどうか。

委員	・参加者が自由に発想すると、漠然としたワーク結果になると思う。最終的に7つのテーマと照らし合わせ、その他意見があればテーマに加えるという方法がよい。ただし、更地とするのか、建物は維持するのか、いずれかを前提としなければ、考え方が変わる。
委員	・地図等を用いて、本庁舎周辺の地域性等について説明が必要ではないか。
委員	・商店街に関わりが深い方や子育て世代などそれぞれの視点で意見を述べることができても、関連の薄いテーマについて意見を求めることは難しいのではないかと懸念する。
委員	・今月の広報に、新庁舎建設に伴う現本庁舎跡地等の利用について検討し、さまざまな視点から意見交換を行うワークショップのメンバーを募集する。グループワークでは、①市域の強み、弱みの洗い出し、②グループ発表、③本庁舎跡地等の利用案などを話し合うと具体的に書いている。自由に意見を出してもらった上で、7つのガイドラインを示すことではどうか。
委員長	・強み・弱みの意見交換では、ワークとして不足する印象である。
⇒事務局	・7つのテーマ以外の意見も当然想定される。これまでの委員会の検討経緯を紹介した上で、自由に意見をいただき、グループワークを進めることとする。その後、委員会で整理するという進め方でいかがか。
委員長	・跡地等の課題については、地域に目を向けて検討する必要があることを含めてご紹介いただきたい。7つのテーマのように、広い視野でキーワードが出ていることを共有し、自由に意見交換を行う形で進めてはどうか。
委員	・総参加人数は何人ぐらいか。ファシリテーターは何人か。
⇒事務局	・総勢60名程度を上限とし、7～8名のグループ編成を想定している。委員は13人おり、各班に1～2名ずつ配置する予定である。
委員	・ワークショップの開催内容を拡散しようと思い、多治見市の公式ホームページやInstagramを確認したが見つけられなかった。Facebookには上がっていたが、情報が探しづらいため、興味のない人が偶然目にする可能性が低い。
⇒事務局	・本件については、SNSではFacebook、市の公式LINEを通じて周知している。そのほか、広報たじみやホームページで展開しているが、情報までたどり着きにくい改善する。併せて、周知チラシを活用し、委員の皆様からも展開をお願いする。
委員	・広報たじみでの周知では、不足すると考える。SNSについても、興味がある市民しか見えない。自治会は興味をもらっているため、そこをお願いするのが先ではないか。
委員	・区長会経由で各区から数名ずつ募るべきではないか。
委員	・周辺地域も跡地利用について興味をもっている。各町内会で回覧すれば、参加希望者はいると思う。重要な内容なため、できるだけ多くの方に情報共有していただきたい。
⇒事務局	・ご意見を踏まえ、デジタル回覧板アプリなどの活用を進める。